

画家達の集団などと云うものは、バラバラの一匹狼の集まりであるから、会議をやらしても編集をやらしても下手糞なものである。斎藤洪人が編集陣に入って今年もどうやらまとまった。

目録が単なる目録に終るのでなく、全道展の作家群の社会に対する発言であったり、芸術論の編集でありたいと思うのだが、いつも不発に終わっている。今年は座談会を切りすてて岩淵氏と八木氏のエッセーを載せることで編集したいと思っている姿に一步近づいたように思っている。

さらに骨のある作家論や芸術論が紙面に出てくことで目録が全道展の芸術活動まで高まるような機関誌の姿まで持って行きたいものだ。

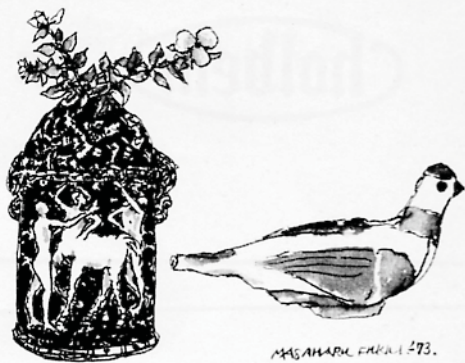
今年の巻頭文は高橋北修氏にお願いしたのですが原稿を一読して、氏が全道展の指向する姿を結晶させたような生き方をしていることにおどろいた。先輩達はなにかをこの会に確実に吹きこんでいたのだ。バラバラのマルチザン集団であるが銃口には愛をこめ、美神の徒として生きたいものである。

(伏木田光夫記)

編集担当者

斎藤 洪人 竹岡 羊子 岸本 裕躬 山口 惣市
手島圭三郎 伏木田光夫

編集後記



MASAHARU FUKUDA 1973.

ケンタウロスの壺と鳩笛
カット・福井正治

第28回展審査出席会員/1973. 6. 17. 札幌市民会館前

